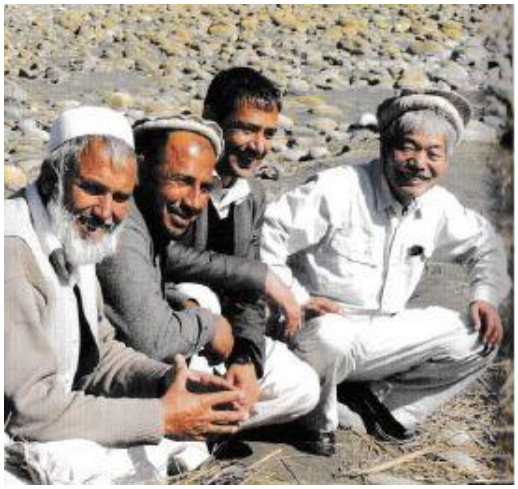
「平和と人権」市民ネットワーク情報　N021-2

事務局発行(℡ 0557-45-1182)　http://peaceito.moo.jp　　2021.2/15

故 中村 哲 医師「写真展」開催



◆病、飢饉、戦乱の三重苦に喘ぐアフガニスタンの地で、医療活動と灌漑事業に生涯を捧げた中村哲医師の足跡を50 枚のパネル写真で紹介します。中村氏は 2019 年 12 月 4 日現地で銃撃され亡くなりました。氏の事業と志は残された人たちに受け継がれました。「中村先生の事業はすべて継続し、中村先生の希望はすべて引き継ぐ」(PMS(ペシャワール・メディカル・センター)総院長　今村優氏)。

伊東市で中村哲氏の写真展が開かれるのは初めてです。この機会に中村哲氏の足跡をたどり、氏の希望に思いをはせつつ、私たちが継承すべきものは何か考えたいと思います。写真展の日時は 3 月 30 日(火)～4 月 2 日(金)の 10:00～16:00、会場は伊東市役所一階ロビー(「市民ホール」)です。詳しくは別紙の案内チラシをご覧ください。

2 月 26 日(金)「消費税とお金の話」学習会

◆コロナ感染のため延期していた第四回学習懇会を開きます。テーマは「消費税とお金の話」。

？ 消費税による税収は社会保障費に充てられる

？ 消費税をあげないと国の財政はパンクする

？ 国の借金は国民一人当たり 737 万円

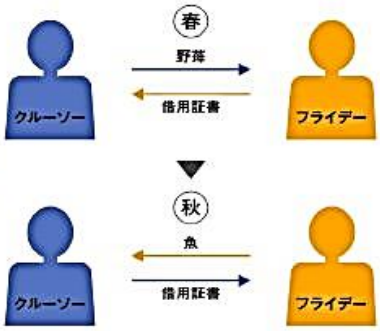
政府・財務省のこうした宣伝に乗せられて、池上彰氏は、昨年支給された 10 万円の特別給付金は国民の借金となって、いずれ国民が返済しなければいけないと「テレビ解説」しました。大久保伸子さんが、消費税にまつわるこうした嘘を鮮やかに暴きます。次ページは池上氏に反論して大久保さんが作成したレポートです。消費税やお金の仕組みに関心のある方、是非参加してください。

・日時：２月２６日(金) 14:00～16:00
・会場：「四季の里」(田中秀幸さん宅)(☎ 48-7373)
・参加費：200 円/人
・主催：市民ネットワーク(連絡先　三好康昭(45-1182))

お金が生まれ、流通する仕組み

【春】
1．ロビンソン・クルーソー【野苺】⇒フライデーに渡す
＜約束＞フライデー【魚】⇒秋・クルーソーに渡す
＜約束＞を書いた紙（借用証書）☜お金の原点

図1　貨幣とは「借用証書」である①



半年の期間
フライデーはクルーソーに対して「負債」がある状態

交換する時が春から秋までの隔たりがあることと、
フライデーが信頼されていることが必要な条件なんだね

【秋】
2．フライデー【魚】⇒クルーソーに渡す

フライデーの「負債」は消滅し
＜約束＞を書いた紙（借用証書）は破棄される

ふうん..「借りる」ことでお金が生まれ、「借りを返す」ことでお金が消えるって聞いたけど、こういうことなのか！赤字国債を返したら、世の中のお金がその分少なくなってしまって、その結果、国民は貧しくなるのと同じだね！

中野剛志 【マネーの本質】なぜ、単なる「紙切れ」の紙幣で買い物ができるのか？

一口メモ【信用創造】
銀行が企業や個人に融資する時は、銀行にその分の手持ち金がなくても、顧客の通帳に金額を書き込むだけで融資できる。その分、世の中に回るお金が増えていく。

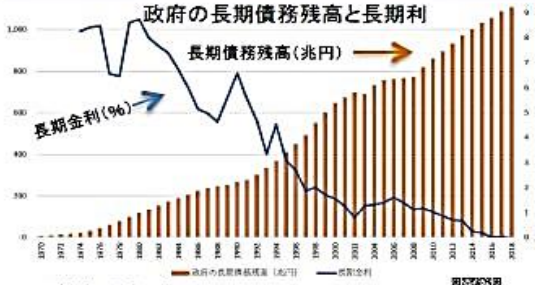
【日銀】金本位制でなくなった現在であっても、銀行券（紙幣）は、日本銀行が信認を確保しなければならない「債務証書」のようなものであるという性格に変わりはない。

「教えて！にちぎん」銀行券が日本銀行のバランスシートにおいて負債に計上されているのはなぜですか？

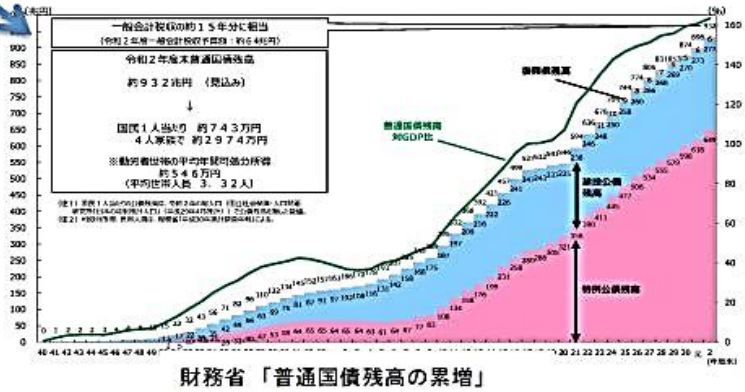
そうか…紙幣は利子無し借用証書、国債は利子付き借用証なんだ…。じゃあ、国債が増えるって、国民の預金が増えることなんだね。

普通国債残高 932兆円、
国民一人当たり 743万円
と書かれているが、1965～2019まで54年間もの間、国債は増え続けている。その間、借金を返済してなくても問題ないし、国債の金利も上がっていない

ああ、良かった！こんなグラフ を見せられていたから、国民一人当たり743万円もの借金があるんだと思って、胸がドキドキしちゃったよ。早とちりだったね。



三橋貴明ブログ
「新世紀のビッグブラザーへ　現代貨幣理論」



財務省 「普通国債残高の累増」

国債の償還の時だって、税金から国債を返すんじゃないよ。
財源は国債の「借り換え」で、それをずっと繰り返せばいいんだってさ。
先進国では普通にやっていることで、借換債は国家予算に計上せず、利払い費だけ計上するんだって聞いたよ。

中野剛志 「コロナ恐慌」で国民が“どん底”に突き落とされないために、絶対に知っておくべきこと

本当だ！
国債の金利は反対に下がっているよ。

書いてあることをよ～く見てごらん。「国民一人当たり743万円」と書いてあるだけで、「借金」とは書いていないよね。本当は「国民一人当たり743万円のお金がある」ということなんだよ。字を書くところが小さいから、詳しく書けなかったのかな？

作成　2021.1.30　とらたぬこ（@tratnou）　https://twitter.com/tratnou

21 年度総会議案から

「ネットワーク」と「アクション」の一本化について

【Ⅰ】問題の所在

昨年 9 月、「市民ネットワーク」と「市民アクション」の今後についてアンケートを取ったところ、何人かの方から両組織の一本化を望む声が寄せられた。理由は、同じような政治理念のもとに、同じ顔触れの人が中心になって別々の組織の活動を進めるのは紛らわしい、一本化した方がすっきりする、というものでした。

たとえば‥

「情報発信、交流の場」＆「9 条改憲 NO！」は主旨からして双方、理解・協調・支え合いで発展させていくもので、組織が二つあることに理解が追い付けませんでした。単純に考えれば学び、行動することは一体なのだからです。

（古川宣子さん）

この様な意見が複数寄せられました。そこで、事務局では二回にわたって一本化の是非について話し合いました。その結果、二つの組織は設立の経緯や会の目的・性格が違うので、無理に一つにしないで当面今のままやっていったらどうか、ということに落ち着きました。一本化については、今後の検討課題としました。そこで、以下では一本化を検討するときに、どのような問題点があるかを整理してみます。

【Ⅱ】違いと類似性

(1)違い

二つの組織は設立の経緯と組織の性格が違います。

①.設立の経緯

・**ネットワーク**…2016 年 1 月、『平和と人権』にかかわるさまざまな**情報を交換する目的**で、個人間をつなぐ網の目の組織を作った。

・**アクション**…2018 年 1 月、安倍首相が目論む **9 条改憲を阻止する為**に、個人と団体が集まって組織した。

② 組織の性格

・**ネットワーク**…賛同者相互間で、情報をやり取りする。対外活動はあくまで有志個人として行動する。

・**アクション**…一つの組織として、他の団体と共同したり、上部団体に加盟したり、対外的な働きかけをする。

(2)類似性

とはいえ、実際の活動場面では両者は混然一体となっていて、外からはどちらの活動か区別しがたいのも事実です。機関誌はタイトル(=「情報＆通信」)も、内容も一体化しています。理由は単純です。両者は以下のように類似しているからです。

①擁護する理念・価値が類似している。

平和、人権、民主主義など、現在の憲法の基本理念をベースにしている。

②事務局を構成する人間がほぼ同じ。

③行動の基本は、ネットはもちろんアクションであっても、個人の自発的意志による。

【Ⅲ】「一本化」の可能性

二つの組織の目的や性格の違いを踏まえながら、「運動を前に進める」見地から一本化の可能性について検討してみます。

(1)組織変更

一本化するには、今の組織をどう変えることになるでしょうか。

①**「市民ネットワーク」**→会の目的を賛同者間の情報交換だけでなく、「平和と人権」のために**活動する**ことも含むことにする。

②**「市民アクション」**→会の目的を 9 条改憲阻

止から、『平和と人権』擁護のために活動することに**広げる**。

※名称は、例えば「『平和と人権』市民アクション」のように変える。

(2)心配・懸念

このような組織変更については、当然不安と懸念を持つ人がいます。特に、「ネットワーク」賛同者の中に以下のような懸念があります。

①ネットワークの緩やかなつながりが失われることが懸念される。新組織の目的に**「活動する」**ことが加わることによって、行動へのプレッシャーが強まるのではないか。

②新組織の中に団体が加盟し、特に政党が入ることによって、組織が政治活動や選挙に利用される心配はないか。

【Ⅳ】方向性

可能ならば、「ネットワーク」と「アクション」を一つにすることが望ましい、と考えています。一番の理由は、二つの組織の事務局メンバーがほぼ同じだからです。別の人が担うならともかく、今のメンバーで行くならば、一つにする方が組織運営の透明性が高まります。では、可能性を現実性にする条件は何でしょうか。それは上に述べた会に集う人たちの心配や懸念を払拭することだろうと思います。

具体的に言えば‥‥

- **行動へのプレッシャー**→新組織にあっても行動はあくまで個人の自発的意志によるものであることを説明し、規約にも明記する。
- **政治利用の懸念**→アクションのこれまでの活動から、政治的に利用されるような心配がないことを説明し、規約にも明記する。

規約に書いたからといって心配を払拭できるわけではありません。あくまで、過去及び今後の活動を通して、組織と人への信頼を得ていくしかないだろう、と考えています。それができて初めて、一本化の見通しが立つのではないか、と思います。

(以上)

読者の声 ― ９月実施のアンケートから ―

梶野和之さん―市民ネットワークの活動について―

学童保育や障がい者福祉の現場を知る機会を作られたことは市民ネットならではと言えますし、コロナで改めて浮き彫りにされた新自由主義=自己責任社会からの転換を今こそ果たすためには「平和と人権」を看板に掲げた市民ネットワークの出番ともいえると思います。

高橋光世さん―市民アクションの存続の是非について―

継続…私に回答する権限があるのか疑問と戸惑いもあるのですが、このような組織をなくしてしまうことは残念過ぎます。伊東の地で聴くことができるとは思っていなかった講演等、ずっと心に残り生きる励みになっています。なくすなんて！止めて！

※先月号のこの欄に、北野幸雄さんが東京大田区で地域の活動をされている旨を書いていました。これを読んだ宮本茂香さんが大田区にお住まいのお兄さんに連絡し北野さんを紹介したところ、二人が直接連絡を取り合ってエールを交わしたそうです。「声」がつないだ縁です。そんなこともあり、北野さんたちが毎月経産省前で撒いている反原発ビラを添付し、活動の一端を紹介しました。